

# 情報通信技術で成長を



筑波総研リポート

地域振興の基盤となる人口・経済・科学技術の東京一極集中がますます進む中、三大都市圏でも東京以外は今後の衰退が予測されている。日本で2番目の人口370万人を有する横浜市でも将来の発展を支えるためにカジノを含む統合型リゾート施設（IR）の誘致を考えているときに、全県の人口が290万人を割

筑波総研顧問(筑波大名誉教授)

## 高木 英明

「次的一步」は、減少中の茨城県に起死回生をもたらす「次的一步」は何か？

日本IBMと筑波大で40年余の研究者生活を送ってきた筆者に、これまでにあまたの識者・専門家から寄せられた施策提言を超える魔法のつえはないが、多少の異見も他山の石になるかもしれない。

取り込まれ、東京とともに発展してきたであろう。もっと遠ければ地方の特色ある独立拠点となったであろう。本県は東京から近いので「勝田全国マラソン」に東京・神奈川から参加するランナーは日帰りできる。つくばエクスプレス沿線には東京へ通勤し、東京でショッピングをする壮年層が住む。

また、筑波大発や産総研発ベンチャーはつくば市で起業してもビジネスを柏市（千葉県）や東京で展開する。茨城空港に降りたインバウンド観光客は高速バスで茨城県を素通りして東京・京都に向かう。

筑波大や研究機関の研究者は世界が相手だ。皆、茨城県との関係は薄い。国や県が莫大な資本を投下したインフラの具内への見返りが空回りしている。もったいない。本県が踏み出すべき「次の一步」は、道路網や鉄道などのハードインフラに頼らず、情報・データ処理と通信技術を活用した県内企業と県民の意識改革による各産業分野の全国展開であろう。情報通信技術により県境は事業展開の障害ではなくなった。次は心の中の県境も取り除こう。働き方改革により生まれた時間的・精神的余裕を、各人の個性を生かした成長の原資としよう。

豊穡な土地に恵まれた茨城県民の穏やかな人柄は技術革新や人的交流における保守性につながっている。閉じていれば暮らしやすい社会だ。しかしグローバル化の中でリスクを取らない企業や人に進歩はない。進歩には不断の努力を踏まえたリスクテイクが必要である。大相撲初場所開幕優勝した徳勝龍闘は「自分が一番なので怖いものはないと、思い切っていくだけだ」と思っていました」と語った。さあ頑張ろう。

(次回は5月23日掲載)